

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度第4回神奈川県感染症対策協議会		
開催日時	令和5年9月19日（火曜日）から令和5年9月21日（木曜日）まで		
開催方法	書面開催		
出席者	〔委員等〕 ◎は会長○は副会長 <委員> ◎森雅亮、○小倉高志、笹生正人、小松幹一郎、吉村幸浩、武田翔、 山岸拓也、岩澤聡子、境真理子、山田佳乃、赤松智子、川島伸一、 三森倫、土田賢一、阿南弥生子、濱卓至、廣末治、富澤一郎、古屋明弘		
次回開催予定日	状況に応じて随時開催		
問合せ先	所属名、担当者名 健康医療局医療危機対策本部室 感染症対策連携グループ 大村、市川 電話番号 045-210-4791 ファックス番号 045-633-3770		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議経過	<p>議題</p> <p>令和5年10月以降の新型コロナウイルス感染症対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議事項1 10月以降の病床確保料について ・協議事項2 10月以降の相談窓口機能について ・協議事項3 10月以降の高齢者コロナ短期入所施設について <p>協議結果</p> <p>別添のとおり、了承された。</p>		

令和5年第4回神奈川県感染症対策協議会 書面協議結果

別添

NO	委員氏名	所属団体・機関及び職名	協議事項1	理由又はその他ご意見	協議事項2	理由又はその他ご意見	協議事項3	理由又はその他ご意見
1	森 雅亮 (会長)	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 生涯免疫難病学講座/聖マリアンナ医科大学 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 教授	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
2	小倉 高志 (副会長)	神奈川県立循環器呼吸器病センター 所長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
3	笹生 正人	公益社団法人神奈川県医師会 理事	異議なし	病床確保料については、急性期病床の確保という観点からも県が考え方を整理し、継続することは理解ができる。 一方、今冬を見据えると、急性期病床が逼迫しないようにするための対策としては、療養期間が終わった患者の受け皿となる下りの搬送の受入病床や高齢者施設の協力が重要である。そのため、県として下り搬送に対する体制の整備(体制整備の費用なども含め)について検討いただきたい。	異議なし	相談窓口の継続は評価できるが、その内容が、外来対応医療機関を単に案内することでは、県民としても利用勝手が悪く、相談件数は先細りとなり、意味がないものになってしまう。 コロナに罹患された方へしっかりと寄り添うことができるよう市町村とも連携しながら県民サービスの向上を図っていただきたい。	異議なし	さがみ緑風園については、一つの役割を終えたと考えられるが、その実績をしっかりと分析し、保健所や高齢者施設にフィードバックすることで、その施設で可能な対応を検討できるようにするなど、今後の対応につながるよう検討いただきたい。
4	小松 幹一郎	公益社団法人神奈川県病院協会 副会長	異議なし△	国が示した財源、範囲の中でしか議論できない(県独自の支援なし)のであれば「仕方がない」と考えるしかない。ただし、10月以降の診療報酬上の評価見直し(減額)、加算の廃止などにより、今後ますますコロナ患者を受け入れることが病院にとっては負担になる。第9波の感染力は5類になっても依然としてかなり強い印象があるため陽性入院患者への加療と感染防止対策は2類時と同等に必要である。 また入院が必要になる患者のほとんどが認知症や基礎疾患を有し、常時介護を必要とする高齢者である。その為、約2週間で元居た場所に居る入院患者は非常に少ない。しかしこちらも5類になって以降は入院費用、移動に要する費用が無料ではなくなった為、経済的理由によって転院が進まず下りコロナ連携が停滞し、急性期のコロナ入院病床を逼迫させている。施設内での療養継続への評価減や、高額の治療薬に自己負担が発生する10月以降は、老健クラスターなどからの入院依頼は激増する可能性もある。 いずれにせよ、新型コロナウイルス感染症の流行が常態化していくと考えた時に、備えるべき対応を行った点と、実行したことを評価する点)の2点に対しては一定程度の経済的評価の継続は必要と考える。 時間に制限があるのは承知しているが、現在病床を確保している医療機関に対しては現況調査を行い、丁寧な対応が求められる。 なお、今後は、病床確保料よりも、診療報酬により、診療実績に対する真っ当な(労力に見合った)評価がなされるべきと考える。なおコロナが主ではなく、主疾患にコロナが合併している場合でも実施する感染防止対策は同じであるため同等に評価すべきである。	異議なし	各医療機関が直接相談できる窓口(担当者)を県、郡・市に継続して欲しい。	異議なし	さがみ緑風園の高齢者コロナ短期入所施設の運営終了については異議なし。 一方で、協議事項1でも述べているが、今後の新型コロナウイルス感染症で医療提供に影響を与えるのは高齢コロナ陽性者への対応であることは論を俟たない。入院が必要なほどの重症ではないが、(隔離の観点も含めて)施設での療養継続が一時的に困難なケースは今後しばらく減ることは無い。 施設での対応が難しくなれば受け入れ可能な医療機関に過度な負担がかかるので、今後も各施設の独自判断ではなく、クラスター発生時には地域の保健所が中心になって対応していく事が必要である。
5	吉村 幸浩	横浜市立市民病院感染症内科長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
6	武田 翔	神奈川県議会厚生常任委員会 委員長	異議なし	—	異議なし	将来、県及び各保健所設置市の対応時間を統一したほうが良いと考えます。	異議なし	—
7	山岸 拓也	国立感染症研究所薬剤耐性研究センター第四室室長/実地疫学研究センター	異議なし	—	異議なし	相談窓口での相談内容と数が分からないと、深夜の実施の是非や、22時と20時のどちらが適切かの判断が難しいです。 深夜や夜間の相談窓口が救急の窓口の対応で問題ないという前提で賛同いたします。	異議なし	—
8	岩澤 聡子	防衛医科大学校医学教育部衛生学公衆衛生学講座 講師	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
9	境 真理子	株式会社テレビ神奈川総務局長兼経営戦略室長代理	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
10	山田 佳乃	神奈川県医療危機対策本部室長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
11	赤松 智子	横浜市医療局健康安全部健康危機管理担当部長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
12	川島 伸一	川崎市健康福祉局保健医療政策部長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
13	三森 倫	相模原市保健所長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—
14	土田 賢一	横須賀市保健所長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—

15	阿南 弥生子	藤沢市保健所長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—			
16	濱 卓至	茅ヶ崎市保健所長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	終了した際、特に在宅で介護を受けている方の行き場の課題が考えられます。 「高齢者コロナ短期入所施設」の入所者の分析を行い、今後の対策構築に向け、県福祉子どもみらい局と連携し、市町村の高齢福祉部に情報提供を行い、感染症に罹患された方が介護問題に困ることがないように、体制整備の構築に活かしてもらいたいと考えます。			
17	廣末 治	神奈川県都市衛生行政協議会代表 逗子市福祉部次長兼国保健康課長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—			
18	小宮 好徳	神奈川県町村保健衛生連絡協議会代表 開成町子育て健康課参事兼課長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—			
19	富澤 一郎	横浜検疫所長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—			
20	古屋 明弘	横浜市消防局救急部長	異議なし	—	異議なし	—	異議なし	—			
結果			【協議事項1 10月以降の病床確保料について】 委員20名中、異議なし20名、異議あり0名			【協議事項2 10月以降の相談窓口機能について】 委員20名中、異議なし20名、異議あり0名			【協議事項3 10月以降の高齢者コロナ短期入所施設について】 委員20名中、異議なし20名、異議あり0名		